



平成 23 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社
代表者名 代表取締役社長 岡本 毅
(J A S D A Q ・ コード 7746)
問合せ先 執行役員総務人事部長 秋山 仁志
電 話 04-7137-3111

業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

平成 23 年 9 月 30 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）及び平成 24 年 3 月期（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）の連結業績予想値を下記のとおり修正いたしますとともに特別損失の発生についてお知らせいたします。

記

I. 業績予想の修正

1. 平成 24 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	3,091	121	107	512	32.12
今回修正予想 (B)	2,918	159	143	474	29.74
増減額 (B - A)	△173	38	36	△38	-
増減率 (%)	△5.6	31.4	33.6	△7.4	-
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 3 月期第 2 四半期)	3,388	600	495	446	28.03

修正の理由

当社は、東日本大震災により被災したガラス溶融炉の代替として溶融炉 2 基を新設し、それぞれ、フライアイレンズ専用炉は平成 23 年 6 月に、主として自動車用製品を生産する炉は平成 23 年 7 月に量産を開始いたしました。新設の炉は、歩留まりが短期間で向上し、設計通りの生産能力を発揮したため、プレス成型後のフライアイレンズの仕掛品在庫を想定よりも早く適正水準まで回復させることができ、結果として、期末仕掛品たな卸高増により営業利益と経常利益が増加いたしました。

2. 平成 24 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想(A)	7,000	420	441	834	52.32
今回修正予想(B)	6,246	420	414	740	46.41
増減額(B-A)	△754	-	△27	△94	-
増減率(%)	△10.8	-	△6.1	△11.3	-
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	6,369	865	794	723	45.36

修正の理由

第 3 四半期連結会計期間に入ってから、欧州における金融不安などに起因して景況感が悪化しており、こうした景気動向を背景に、平成 23 年 9 月以降のセットメーカーでの在庫調整の影響からの回復は緩やかになると思われます。このため、通期の売上高は減少する見込みです。

一方で、新設したガラス溶融炉の歩留り向上などによるコスト削減は、前倒しで進んでおり、営業利益は、概ね、420 百万円を維持できる見込みです。

II. 特別損失の発生

「機能性ガラス・薄膜事業」において、ガラス偏光子についてはプロジェクター用以外の製品開発が遅れており、又、太陽光用発電用ガラス部品については事業の立ち上がりの遅れにより、経常的に営業損失を計上しております。

プロジェクター用ガラス偏光子は、売上高が漸増してきておりますが、プロジェクター用以外の事業展開の遅延をカバーするにはいたっておりません。

当社グループの太陽光発電用ガラス部品は、主に、売電業者などによる大規模な集光型太陽光発電設備をターゲットにしたものですが、発電コストが低下し、電力料金と一致するグリッドパリティが、達成されていないため、部品メーカーへの価格要求も厳しいものがあります。また、欧米諸国の厳しい財政状況の下、集光型太陽光発電の本格化が遅れることの影響も予想されます。

このため、「機能性ガラス・薄膜事業」に係る生産設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、個別決算、連結決算ともに 78 百万円であります。

この減損損失の影響は、上記の業績予想の修正に織り込んでおります。

以上